

## 猿骨沼・ポロ沼・クッチャロ湖

1976 年度

山 内 昇

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
51. 3.18	晴	5		5	クッチャロ湖 初 認
21	曇	16		16	
22	曇	16		16	
23	小 雪	4		4	天候が悪く 4 羽より観察されず
25	雪	21		21	
26	曇 雪	33		33	この中に 7 羽の幼鳥をみる。
30	晴	67		67	この中に 16 羽の幼鳥をみる。
4. 1	晴	76		76	
2	晴 曇	220		220	アメリカコハク鳥確認する。
4	晴 曇	400+		400	PM 3:00頃 バンデング作業し、002Y・003Y放鳥する。アメリカコハクも確認。
5	晴	970+		970+	夕方は 1,000 羽以上となる。
6	曇				1975・8 ソビエトで放鳥の 017C 渡来。 4 月 4 日放鳥の 002Y・003Y も餌場来る。
7	曇	1,300+		1,300+	002Y・003Yも元気、近寄る。1975 年 4 月放鳥の 001Y 千歳に飛来の便りあり。
8	曇	1,470+		1,470+	017C 引続き観察する。クッチャロ湖の氷 も少し溶け、バンカロー前に水面開
9	晴	1,470		1,470+	002Y・003Y アメコハク餌場に集まる。
10	晴	1,640		1,640	017C・002Y・003Y 餌場に集まる。
11	晴	1,700+		1,700+	AM 10:00 白鳥の会・松井氏他 4 名の協力を 得てバンデングを行う。004・5・6・7Y の 4 羽を標識放鳥する。夕方 002・3・5Y の 3 羽が餌場に集まる。
13	晴 曇	クッチャロ 湖 2,400+ ポロ沼 700+	40	3,140	未明ポロ沼のカウントする。700 羽余の コハクが氷上に群れていた。PM 5:00 バン デング 008Y 標識放鳥。未明飛来群が多い。
14	雨 雪	2,300+			未明は天候が悪く沖合の群れは調査せず。 前日より数は増えていると思うが、近くに いる 7 群ののカウントする。003・5・6Y が他の群れと共に餌場に集まる。強風の中 で調査していると、2 羽南西方行より飛来 その中の 1 羽に緑色の首環がついていた。 何んのおびえる様子もなく餌場近くに着水 よく見ると 1975 年 4 月 14 日に標識放鳥 した(幼鳥) 001Yであった。丸一年ぶり

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
					の再会であった。放鳥時は黒子(幼鳥)であったが、今日はすばらしい成鳥体(亜成鳥)になっていた。折りに002・3・4・5・6・8Yの今年放鳥した首環つき白鳥たちも001Yを歓迎するかのように他の集団と共に餌場に来たが、007Yだけは不明であった。本道の千歳で確認してから7日目でクッチャロ湖に飛来したのである。この001Yについては昨年初冬の頃より酒田市の阿部敏雄氏(白鳥の会会員)より観察の便りを頂いていたので、渡りのコースと他の調査する上でこれほど待遠しく思ったことはない。この白鳥は放鳥時は幼鳥のため継続調査することにより何才で成鳥になるのかも判明するのである。
51. 4.16	雨 雪				天候が悪くカウントはしないが、沖合(樺太)方面とポロ沼に大群の移動していた。003Yが餌場に来る。
17	雪 晴				今日もポロ沼・樺太方面へ飛去る。湖も40%ほど氷も溶け、001Yが餌場に来る。
18	雪 晴	1,900+	1	1,900+	オオハク1羽を確認する。餌場には017C 001・3・9Yの首環つき4羽も集まる。
20	曇				カウントはしないが、最初より2,000羽以上の白鳥が飛去ったものと思う。夕方、コハク幼鳥に010Y標識放鳥する。今年は本日で合計9羽のコハク鳥に標識放鳥する。
21	雨				餌場に30羽余り群れるが、001Y・010Yの2羽が近寄る。
22	曇	ポロ沼 2,000+ クッチャロ湖 不明		2,000+	未明ポロ沼の調査する。2,000羽余りカウント。その中に007Yも混っていた。夕方にはクッチャロ湖の餌場に001・010・008Yが集まる。ポロ沼ではヒシフイ11羽も観察する。
23	曇 雨	300+		300+	餌場に17羽来る。017C・010Yも観察する。
25	曇	ポロ沼 2,700+		2,700+	クッチャロ湖は未調査。ポロ沼のみカウント。
26	晴 曇				ポロ沼へ仙台市よりガンを守る会会員3名が来町し案内する。今はカウントせぬが、前日と余り移動はないと思う。
27	曇 晴	40		40	クッチャロ湖には40羽より観察されず、他はポロ沼や樺太方面へ飛去ったと思う。
29	曇 雨	13		13	クッチャロ湖には13羽より見られず、010Yのみが国民宿舎下の舟付場で観察する。
5. 1	曇	16		16	クッチャロ湖のみ調査

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
51. 5. 3	曇	ポロ沼 1,700+ 猿骨沼 300+		2,000+	ポロ沼と猿骨沼の2ヶ所でカウントする。2,000羽余の数を確認する。先月25日2,700羽余の数を観察したのだが、樺太方面気候が良いのか多数の白鳥が飛去している。
5	曇	ポロ沼 1,750+ 猿骨沼 29	44  2	1,794  31	ポロ沼と猿骨沼と合わせて1,825羽余の数を観察した。両沼で46羽のオオハク鳥を確認したが、その中で猿骨沼で1羽のオオハク鳥に足環が付いていた。2月11日、ウトナイ湖のユースホテルの木下氏(白鳥の会会員)が傷病鳥と思われる白鳥を保護した。その日は白鳥の会の例会で私も出席していたので、顔写真を撮っていたので猿骨沼のオオハクのことを話すと、1ヶ月余飼育保護したが、その後元気になったので放鳥したとの話。遠望のため足環番号は読みとれないが、顔写真とよく似ているためウトナイ湖よりの飛来したオオハク鳥と思う。去る4月14日の001Yもウトナイ湖の近い沼よりの飛来であり、このオオハク鳥も標識が付いていたから観察ができたのであって、矢張り渡り鳥の調査の上では、標識を付けることは大変意義のあることと思うと同時に、木下氏の白鳥保護に対する熱意あればこそ一命をとりとめ、渡りのコースを解明したものであると思う。矢張り、クッチャロ湖・ポロ沼方面に渡来する白鳥は日本海沿の内陸を通過しながら本州へのコースを行き交うものと思う。
9	晴	15		15	クッチャロ湖で15羽。
10	晴	71		71	クッチャロ湖に昨夜50羽余の飛来あり。
11	曇	0		0	昨日飛来鳥も全て渡去したのか不明。
13	晴	0		0	クッチャロ湖を舟で調査するが、白鳥は不明。
22	曇				ポロ沼にも白鳥は不明。
26	晴	猿骨沼 6		6	猿骨方面よりクッチャロ湖に飛来する話を聞き、猿骨沼の調査する。草原に6羽の残鳥を観察する。番号は不明だが、緑の首環つきも観察する。
27	晴	猿骨沼 12	1	13	昨日に引き続き猿骨沼の調査する。沼の中ほどにオオハク1羽とコハク12羽確認する。001Y緑、017C赤の2羽も混っていた。何れも元気で採餌していた。よく観察していると番になる様子もなく、皆な亜成鳥と思われる。
6. 1	晴	猿骨沼 12	1	13	クッチャロ湖・ポロ沼・猿骨沼の3ヶ所で水鳥の調査する。猿骨沼で去月27日と同じ白鳥を観察する。何れも渡去する様子もなく国道の近い所の草地で羽づくろいをしていたが、少し換羽をして来た様であり、草原に多数の綿羽が落下していた。

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
51. 6. 6	曇	猿骨沼 7		7	猿骨沼の白鳥調査するが、7羽より観察されず、後の6羽は2日～4日までの南西の風で飛去ったのか発見されず、この7羽の残鳥の中にも首環つきは観察されない。白鳥は猿骨川沿の牧草原で換羽期に入ったのか羽採をしていたが、その中で1羽のコハク幼鳥は、風切羽がばさばさの様に見え、私が近づいても草原を羽を広げ飛跳ねるだけで川の中に入った。この様子では飛上ることは出来ないものと思う。この頃は草丈も30～40cmでタンポポも満開であり、沼の水温も高く白鳥は草原や木陰で体温の調節している様であり、草地で白鳥の寝た後を見ると、沼より100m～150mも陸地に上り寝た様である。
10	曇	6		6	猿骨沼の草原で6羽確認する。台地で見ると沼向のヤチハシノキの中に入っていた。
11	小 雨	5		5	今日は国道より見える牧草地の中で、私が近づくと首を上げていたが、昨日6羽見えたが、本日は5羽より発見されず。
13	曇	2		2	猿骨沼では2羽が沼の中央附近で採餌していた。他は草原に入っているのか不明。
16	曇	2		2	猿骨沼の白鳥調査に行く。草原に2羽より確認されず、他は何処へ行ったのだろうかもしやキツネの餌にでもなったのではないか。この付近はキツネも多数繁殖している地域でもあり、草原で寝る白鳥は換羽期で飛立てぬためキツネの餌になっているのでは？ この日の調査中に沼の中央部でオジロワシが大型のカモ・カルガ？と思うのを捕食するのを観察する。私は以前クッチャロ湖でオジロワシが白鳥を捕食するのを見たことが何度かあったが、結氷期間のため餌の採れぬ白鳥は疲労し、飛立つことのできない白鳥ほどオジロワシやキツネの餌食になる率も高く、5月27日に13羽残っていた白鳥も何羽が樺太へ渡去したものか案じられる。
17	晴	2		2	猿骨沼の草原で017C死体発見する。猿骨沼の台地でキツネに運ばれたと思われる白鳥のミイラのような死体を収集する。死体の様子から見てオジロワシに捕食され、その後の死体をキツネが運んだものと思う。この標識鳥は1975年8月、ソビエト・チュコト半島チャウン湾で幼鳥に標識放鳥したもので、私もこの鳥の猿骨沼で不明になった日、6月6日より渡去する様子がないまゝ不明になったので、もしやと心配をしていたのだが、何んとしても故郷のチュコト半島へ帰したかった。越冬地の日本各地でこの標識鳥であればこそ観察したので、ソビエトと日本と両国で生れた時からの追跡調査を将来にわたり行いたかったし、日本最北端の猿骨沼で落鳥になったのは残念でならないが、この地方はオジロワシの繁殖地でもあり、換羽期に入り飛立つこのの

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
					できない白鳥であれば、これも自然界の節理なのかもしれない。
51. 6. 19	晴	2		2	今日も2羽より観察されない。猿骨沼の湿原で今日もコハクの落鳥(死体)で発見するが、湿原が深く人間が近寄ることができない。ヨシの中で時折りトビが3羽ほどで白鳥の白い体を持上げ様とするが、白鳥の死体が重いのか白い羽が飛散するのみ。
26	曇	2		2	沼向(猿骨沼)のヤチハンノキの下に2羽の白鳥を観察する。気温が高いのか草深中で動こうともしない。この頃、沼の附近ではクイナの雛、マガモの雛を観察した。
7. 2	晴	2		2	牧草地の中に2羽が寝ていた。矢張り飛立つ様子もなく、人が近づくと羽搏きをしながら川の中へ入る。
17	晴	1		1	久しぶりで白鳥の調査に行く。今日は1羽より観察されず、不明の1羽も何かの餌食になったものと思う。沼にはカモ類の子連が多く、1羽になった白鳥は水温が高いためか、すぐ陸地に上るが遠望であるが元気な様である。
24	晴	1		1	ヤチハシノキやヤチヤナギの湿原で1羽を観察した。矢張り元気な様である。
26	曇			0	猿骨沼と何処を探しても白鳥は発見されず只1羽が夏期に残鳥となったが、何かの餌食となり、道北地方で夏越えをするのでないかと随分期待したが、矢張り気候と自然の厳しさには勝つことが出来なく死んで行ったものと思う。6月1日の12羽の残鳥以来今日まで夏期の白鳥を自然の中で観察した。夏期換羽を初め、飛べなくなる様子や水温の高くなるため水鳥が陸鳥の様に草原で牧草の根を掘起し採餌するなど、白く何者にも目立たぬ木陰に入り、己れの身を守る方法など今日まで生きるため大変苦労した様であった。春の渡去期に群れから離れ、亜成鳥のみのグループが残鳥となつては、北に渡ることができなかったのか。(リーダーがいらないから)尚、自然界では道北地方は繁殖地の気候が似ているためかは知る訳もないが、繁殖に関係のない亜成鳥のため残ったことだけは確かであり、もしこの残鳥の中にも一番の成鳥でもいるのならもしや繁殖の可能性があるのではないかとさえ一時期思ったことがあった。この夏期に入ってから017Cの赤首環の白鳥と共に3羽のコハク鳥の死体を収集したが、何れも肋骨がきれいに残っているところを見ると、猛禽類の餌となり、その後キツネが残飯を整理したものと思う。

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
51.10.10	雨			10	秋の初認であり、雨降りのため種別は不明
11	大 雨			13	
12	曇			0	前日の白鳥は飛去り不明。
13	晴 曇			3	
16	晴			32	
20	晴 曇			18	
23	晴			37	夕方山軽地区でカモのバンデング作業中、白鳥渡来多数あり、明朝は数も多数増えているものと思う。
25	曇	170		170	湖の各所に小群で観察する。白鳥橋附近に赤い首環つきを発見。004C・5・9Cと4羽の標識の幼鳥と2羽の成鳥につき添れ、14羽程の小群と共に沖合の方へ出て行く。20分ほど観察していたが、成鳥はコハク鳥で、幼鳥はまだ生後間もない赤んぼの様な幼鳥で弱々しくよく飛んで来たものだと思われるほどの鳥であった。
26	大吹雪				大吹雪のため白鳥は移動したのか不明である。
27	曇			320	三角点でカウントする。遠望のため種別不明。
30	曇 雨			230	赤い首環の4羽も観察する。
11. 2	曇			220	赤い首環の白鳥は不明。飛去ったのか。夜間に何群かの飛来がある様であるが、速く飛去るのか数は増えない。
3	曇 晴			230	山階鳥類研究所黒沢調査と共にクッチャロ湖の白鳥調査を舟外機つきの舟で調査する首環つきは赤・緑も発見されず。
4	大 雨				猿骨沼で10月15日保護されたコハク鳥幼鳥その後飼育され元気になったので、今日クッチャロ湖で放鳥する。カラスプレー赤色で、首に2本の線を入れ放すと湖の仲間に入る。
8	大吹雪			120	未明の天候が悪く、近くにいる白鳥のみ観察する。今日道白鳥の会松井支部長より001Y緑首環元気で酒田に飛来したとの報告あり。
10	吹 雪			120	カラスプレーの放鳥元気で仲間と採餌していた。観察場所下方の水面には幼鳥連れが多く、親鳥は警戒心が強い。
11	雨 小雪	220		220	朝の調査時に国民宿舎下のヨシ原で003C 007C・008C・013Cの4羽幼鳥に赤首環を付けたのが飛来していた。この幼鳥には3羽のコハク鳥の成鳥が付き添っている。10月25日のグループとは別な鳥であり

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
					新しい渡来郡と思われる。グループは幼鳥連れが多い。 今年の渡来する白鳥は速く飛去り、南下するのが特長である。湖の一番群れる地域には一羽も飛来せず、矢張り夏期間の干魃の影響と思う。 道白鳥の会より003Y・005Y、山内が1976年4月放鳥が元気飛来した報告あり。
51.11.12	吹 雪			154	昨日までの幼鳥連れグループは飛却したか不明で、今朝観察したグループは亜成鳥か？ 白羽が多いが、その中には番いと思われるのは見当らず、昨日確認した003Cグループも不明。
14	雪 雨	クッチャロ湖 ポロ沼 猿骨沼		120 220 4	クッチャロ湖は橋の近くに2群 ポロ沼は川口近くに。
17	曇			370	この中に250羽余は亜成鳥と思われるが国民宿舎下方に250羽ほど群れている。他の120羽ほどには幼鳥も混じる。
20	曇	クッチャロ湖 ポロ沼		257 55	クッチャロ湖は8割以上結氷。川口近くのみ水面が開き、他は全て結氷。クッチャロ湖とポロ沼を亜成鳥群が行き帰りしているものと思う。今朝の観察では幼鳥は7羽より観察されない。
22	曇				数は前日と変わらない。湖は白鳥橋附近が少し水面があるのみ、他は結氷している。白鳥の会道支部より005Y島根県、006Y新潟県に渡来したとの報告あり。
23	曇			290	昨夜白鳥の渡来する声が聞こえ、朝の調査では数は増えて来た。コハクの亜成鳥が多い。
28	曇			440+	少し暖気のためか氷がゆるみ、4ヶ所ほどに群れが見える。亜成鳥と思われる。天候が悪くカウントも不確実で、もう少し増えている様である。
12. 1	曇			40	湖は結氷し、餌とりが出来たのか飛去し、亜成鳥と思われる1群より見られず。
4	晴	200+		200+	種別調査する。幼鳥11+成鳥200=210羽 中日薄氷となったのか、三角点の下方で採餌していたが亜成鳥と思われる。 群れは時折飛立ち、湖の上を30分程飛廻り着水する。
7	小 雪	117	5	122	今秋初めてオオハク成2・幼3を観察した。今までもオオハクの飛来もあったと思うが秋は給餌していないため、遠望にいる白鳥をカウントするのがやつのため、種別の羽数は出さず、合計のみを記録した。

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
51.11.17	晴			0	全て結氷。白鳥は1羽も観察されない。全部渡去したものと思う。ポロ沼も全面結氷白鳥は0。
23	吹 雪			23	昨夜樺太方面より東の風に乗って飛来したのか。全面結氷した水面に29羽のコハク？遠望の不明が観察された。今頃宗谷地方の沼・湖は何処も結氷しているため採餌はできない。只氷の上で羽を休めるだけである。去る17日には1羽も残っていないので、この白鳥は新入りであるが、今頃でも樺太方面の白鳥の湖が開いている湖があるのか？
24	曇			0	昨日氷上で寝ていた白鳥は渡去し、湖は一面氷原と化し、カモ1羽観察することができなく、白鳥の季節も今日で終わった。昨夜飛去ったと思う23羽も無事南下したと思う。